

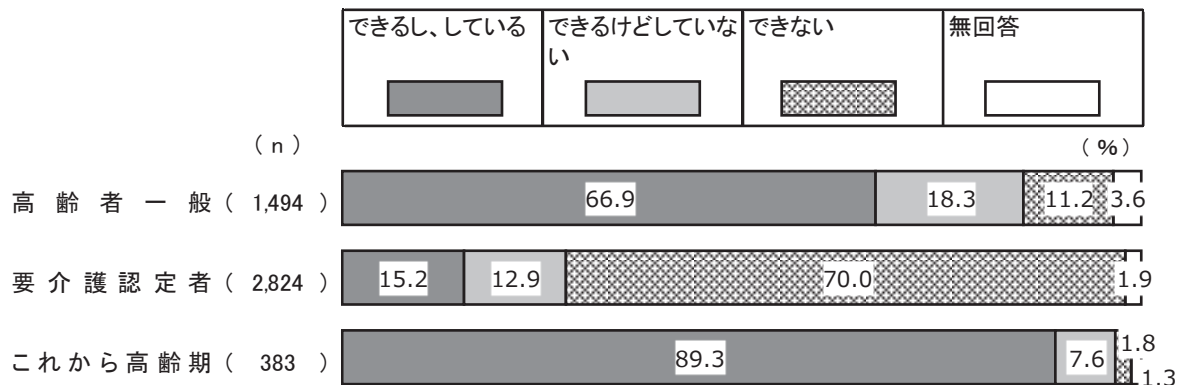
## 2 日常生活の状況

### (1) からだを動かすこと

#### ① 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること

○階段や手すりを壁をつたわずに昇ることが“できる”（「できるし、している」と「できるけどしていない」の合計）と回答した人は、高齢者一般で 85.1%、要介護認定者で 28.1%、これから高齢期で 96.9%となっている。

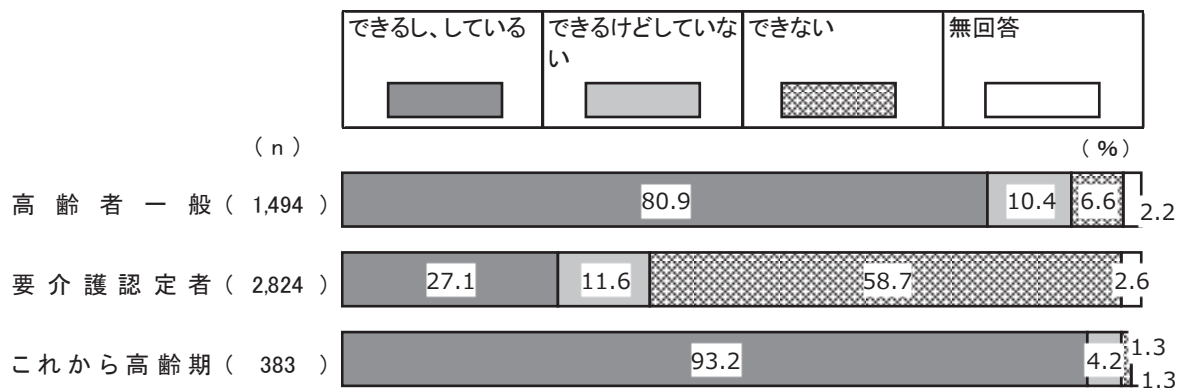
■階段を手すりや壁をつたわずに昇ること 《ニーズ調査》



#### ② 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること

○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることが“できる”と回答した人は、高齢者一般で 91.2%、要介護認定者で 38.7%、これから高齢期で 97.4%となっている。

■椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること 《ニーズ調査》

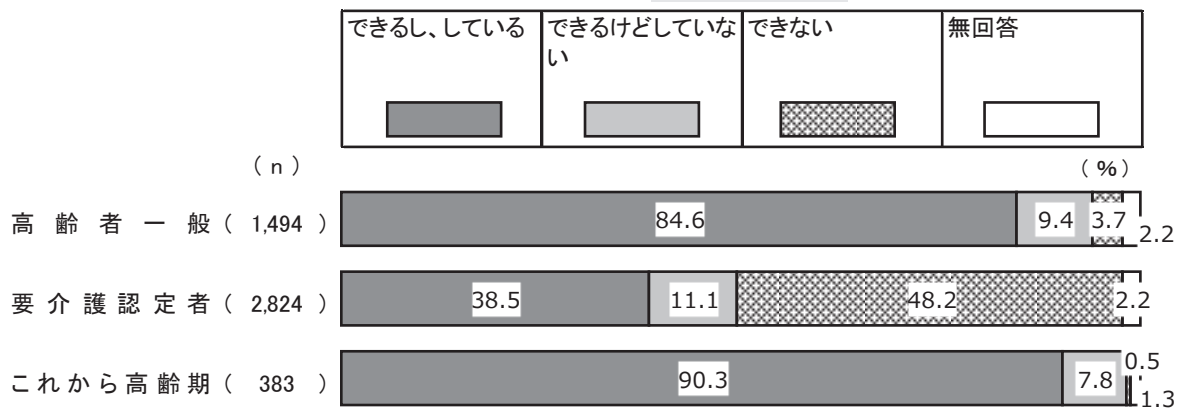


※ 《ニーズ調査》とは、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査』として国が示した調査項目を指す。第Ⅱ章では、国が指定している調査対象者（要支援1・2の認定を受けている方、総合事業対象者、要支援・要介護認定を受けていない方）に限定して再集計した結果を掲載している

### ③ 15分続けて歩くこと

○15分続けて歩くことが“できる”と回答した人は、高齢者一般で94.0%、要介護認定者で49.6%、これから高齢期で98.2%となっている。

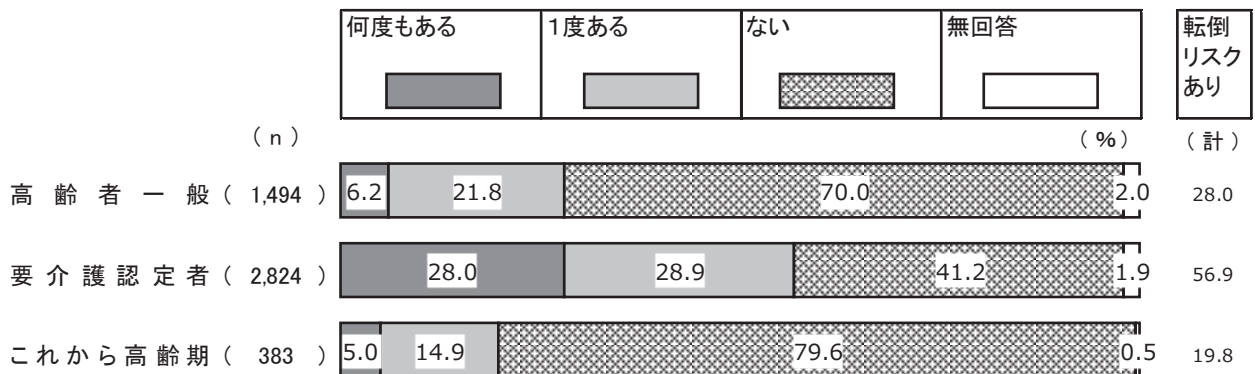
#### ■15分続けて歩くこと <<ニーズ調査>>



### ④ 過去1年間の転んだ経験

○転倒リスクがある人（過去1年間の転んだ経験が「何度もある」と「1度ある」の合計）は、高齢者一般で28.0%、要介護認定者で56.9%、これから高齢期で19.8%となっている。

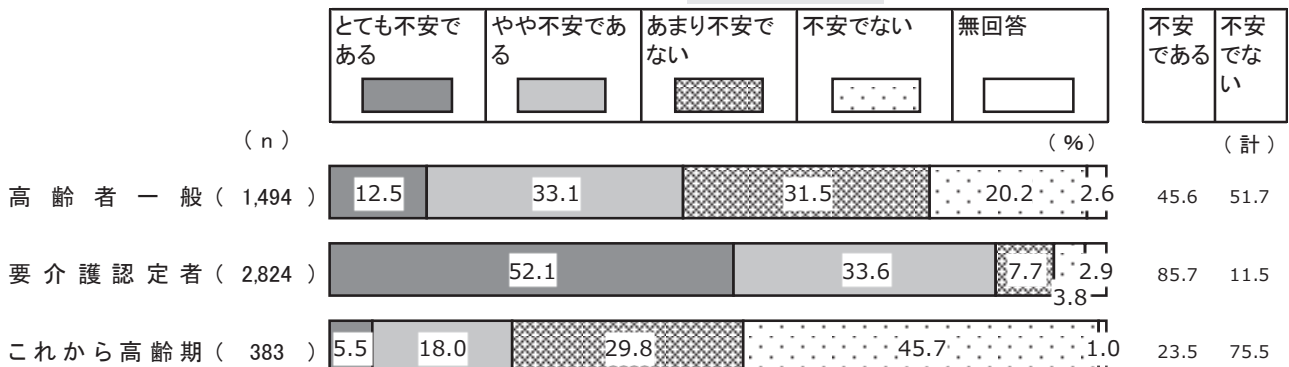
#### ■過去1年間の転んだ経験 <<ニーズ調査>>



### ⑤ 転倒に対する不安

○転倒に対して“不安である”（「とても不安である」と「やや不安である」の合計）と回答した人は、高齢者一般で45.6%、要介護認定者で85.7%、これから高齢期で23.5%となっている。

#### ■転倒に対する不安 <<ニーズ調査>>



**【高齢者一般】**

○性別にみると、『女性』は転倒に対して“不安である”と回答した人が5割半ばと、『男性』（3割半ば）と比べて高い。

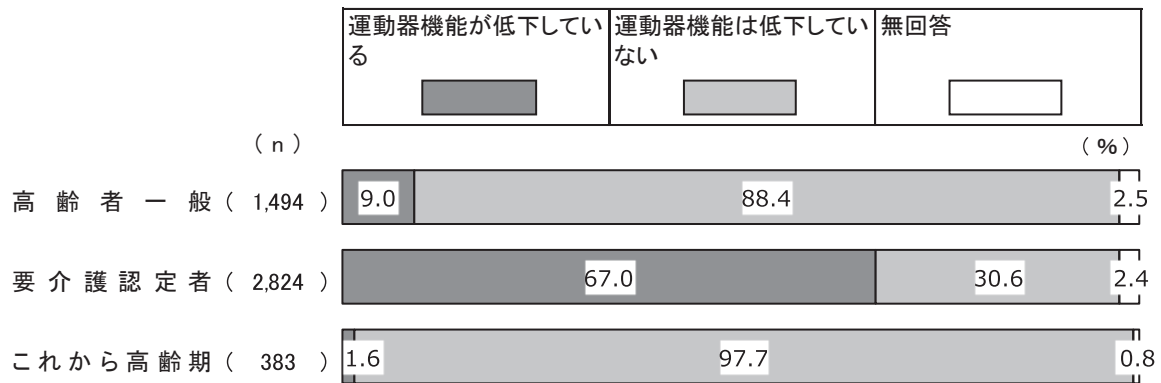
**■転倒に対する不安 《ニーズ調査》<高齢者一般：性別>**

	n	(%)					(計)	
		不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	無回答	不安である	不安でない
高齢者一般	1,494	12.5	33.1	31.5	20.2	2.6	45.6	51.7
男性	615	7.3	27.6	35.9	27.3	1.8	35.0	63.3
女性	834	16.4	37.5	28.1	15.3	2.6	54.0	43.4

**⑥ 運動器機能の低下している高齢者**

○「運動器機能が低下している」は、高齢者一般で9.0%、要介護認定者で67.0%、これから高齢期で1.6%であった。

**■運動器機能の低下している高齢者 《ニーズ調査》**

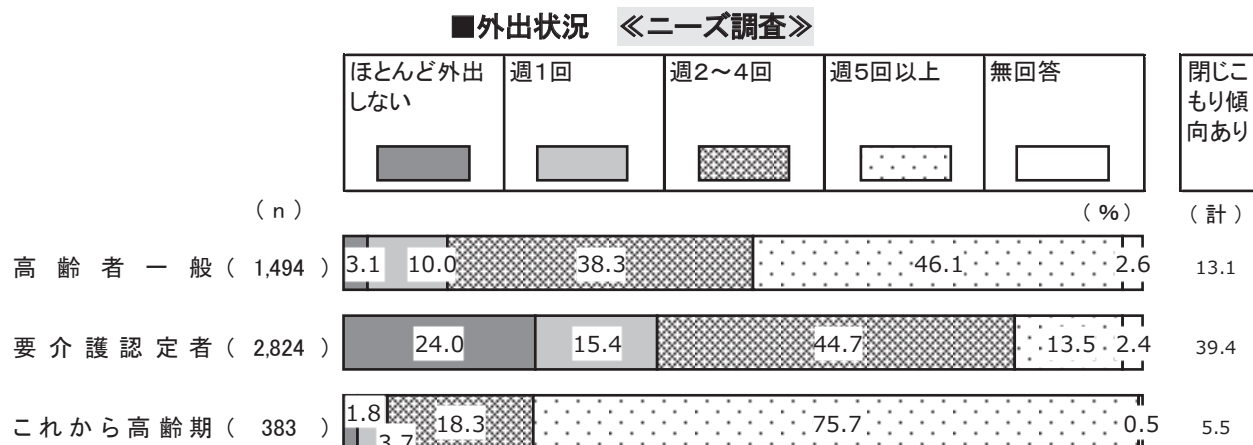


※ 下記の項目に3つ以上該当する場合に、「運動器機能の低下している高齢者」としている

- ・階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができない
- ・椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができない
- ・15分続けて歩くことができない
- ・過去1年間に転んだ経験が、何度もある、あるいは、1度ある
- ・転倒に対して、とても不安である、あるいは、やや不安である

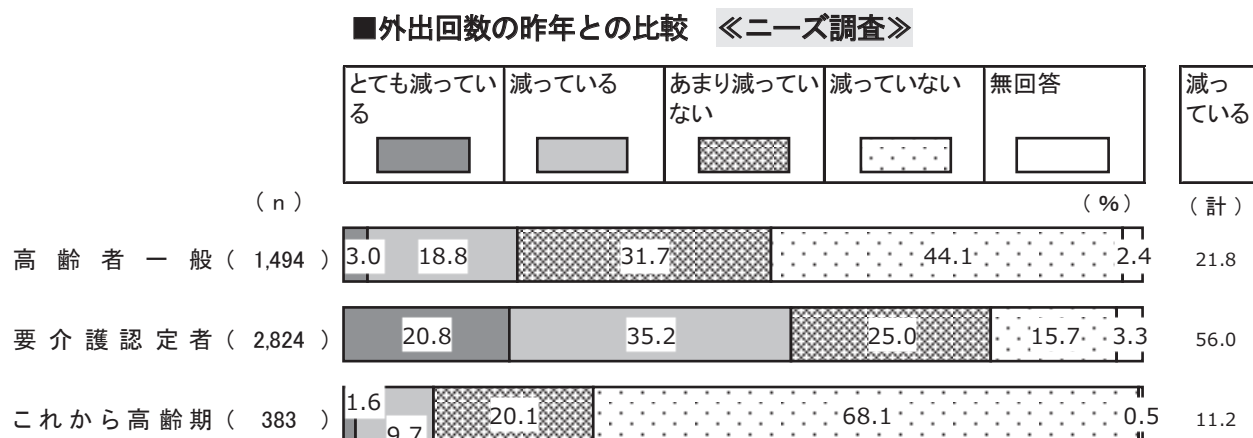
### ⑦ 外出状況

○閉じこもり傾向のある人（「ほとんど外出しない」と「週1回」の合計）は、高齢者一般で13.1%、要介護認定者で39.4%、これから高齢期で5.5%であった。



### ⑧ 外出回数の昨年との比較

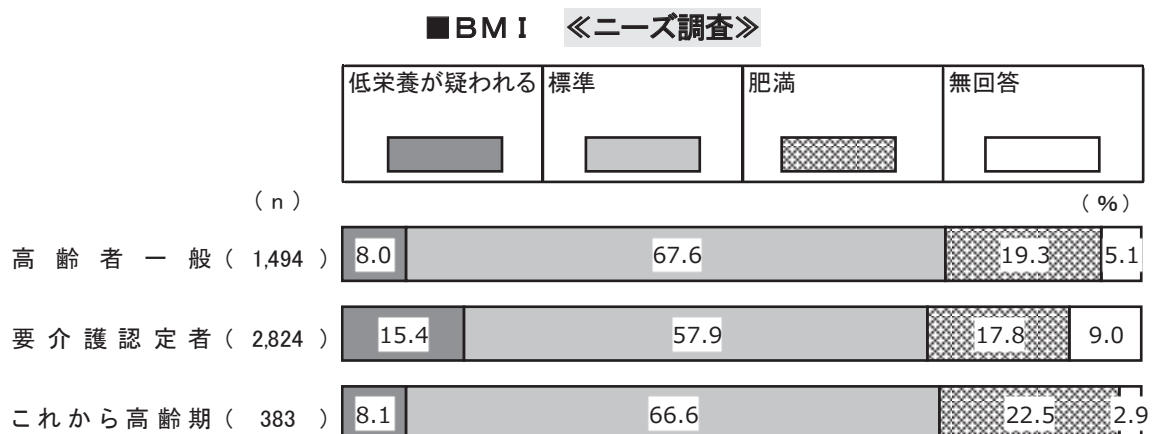
○昨年と比べて外出の回数が“減っている”（「とても減っている」と「減っている」の合計）と回答した人は、高齢者一般で21.8%、要介護認定者で56.0%、これから高齢期で11.2%であった。



## (2) 食べること

### ① BMI (Body Mass Index (肥満指数) の略)

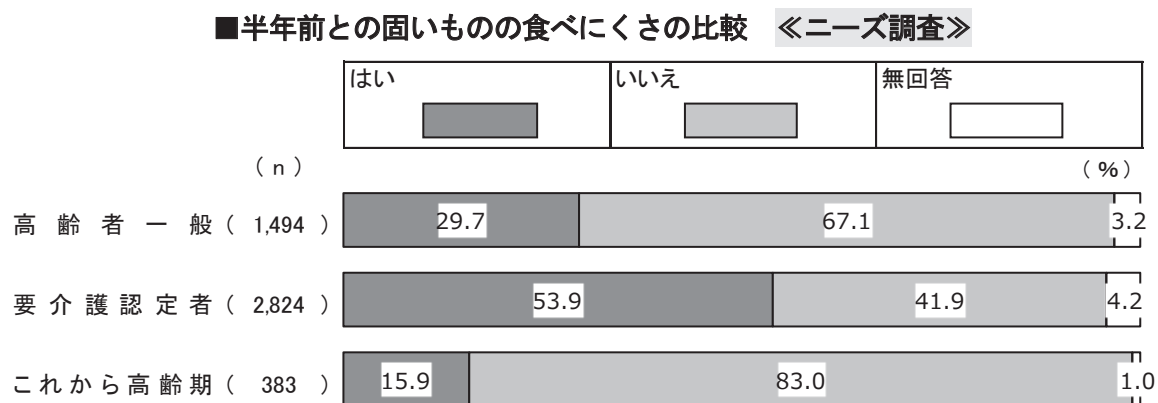
- 高齢者一般では、「低栄養が疑われる」が8.0%、「標準」が67.6%、「肥満」が19.3%であった。
- 要介護認定者では、「低栄養が疑われる」が15.4%、「標準」が57.9%、「肥満」が17.8%であった。
- これから高齢期では、「低栄養が疑われる」が8.1%、「標準」が66.6%、「肥満」が22.5%であった。



※ BMIとは、体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))で算出され、18.5未満の場合に低栄養が疑われる。18.5~25.0未満が標準、25.0以上が肥満気味とされる

### ② 半年前との固いものの食べにくさの比較

- 咀嚼機能の低下が疑われる人(「はい」と回答した人)は、高齢者一般で29.7%、要介護認定者で53.9%、これから高齢期で15.9%であった。

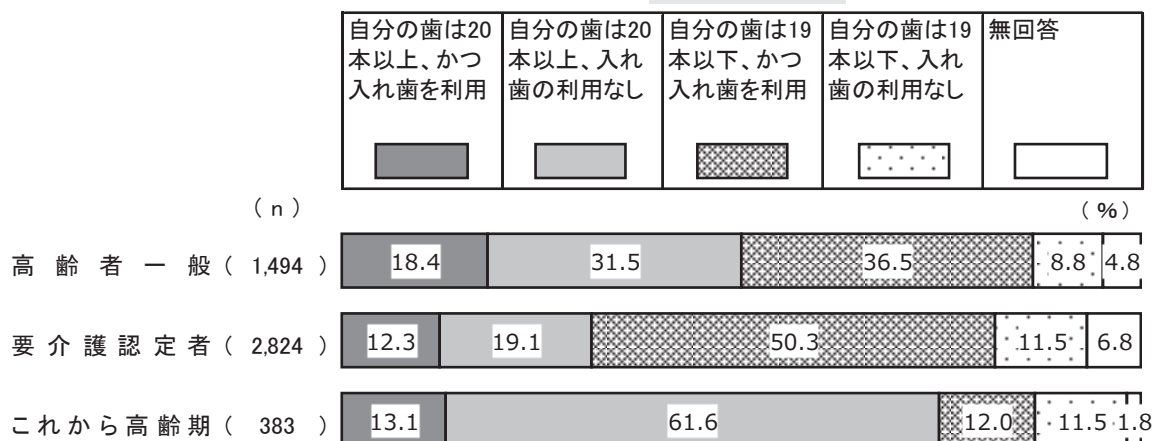


### ③ 歯の数と入れ歯の使用

○高齢者一般、要介護認定者では、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が最も高く、それぞれ36.5%、50.3%となっている。

○これから高齢期では、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が最も高く、61.6%となっている。

■歯の数と入れ歯の使用 《ニーズ調査》

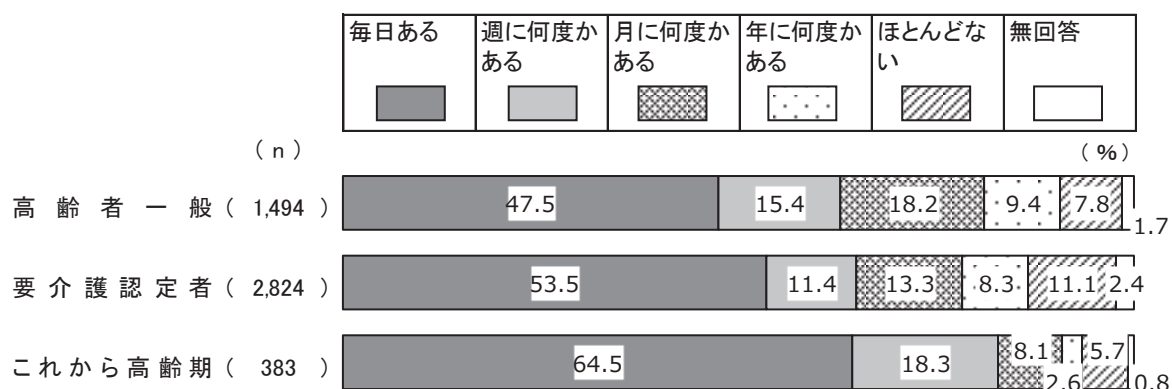


### ④ 誰かと食事をとる機会

○いずれの調査でも、「毎日ある」が最も高い。

○「ほとんどない」は、高齢者一般で7.8%、要介護認定者で11.1%、これから高齢期で5.7%であった。

■誰かと食事をとる機会 《ニーズ調査》

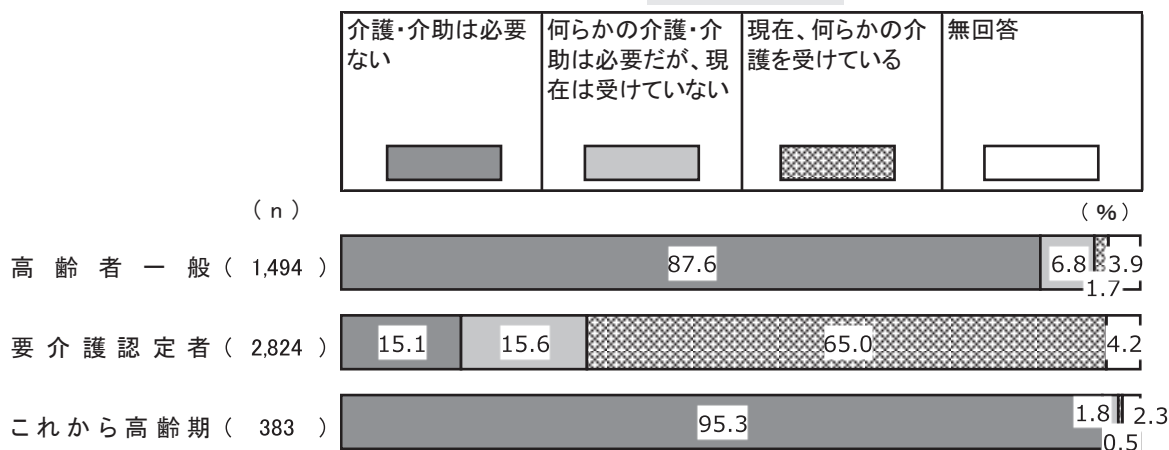


### (3) 自立状況

#### ① 介護・介助の必要性

- 高齢者一般、これから高齢期では「介護・介助は必要ない」が最も高く、それぞれ87.6%、95.3%となっている。
- 要介護認定者では、「現在、何らかの介護を受けている」が6割半ばであった。

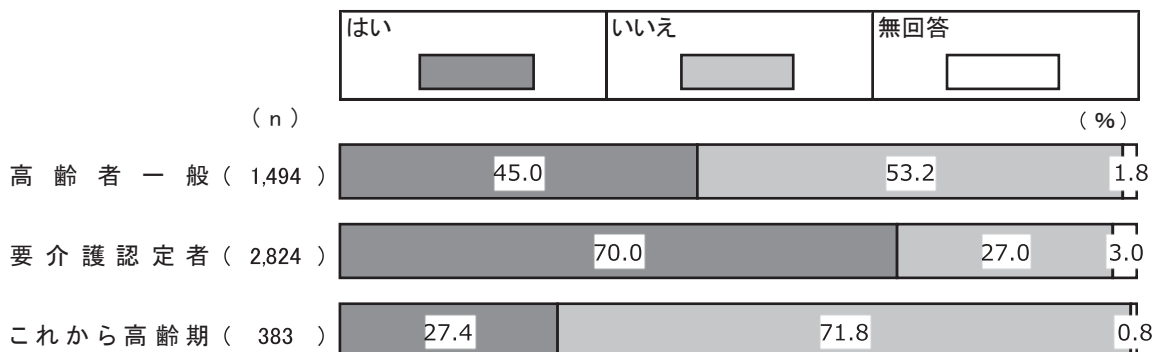
■介護・介助の必要性 <<ニーズ調査>>



#### ② 物忘れの様子

- 認知機能の低下がみられる（「はい」と回答した）人は、高齢者一般で45.0%、要介護認定者で70.0%、これから高齢期で27.4%であった。

■物忘れの様子 <<ニーズ調査>>



#### 【高齢者一般】 【要介護認定者】

- 年代別にみると、『後期高齢者』で認知機能の低下がみられる（「はい」と回答した）人が高齢者一般で5割超、要介護認定者で7割超と、それぞれ『前期高齢者』と比べて高い。

■物忘れの様子 <<ニーズ調査>>

#### <高齢者一般：年代別>

	n	はい (%)	いいえ (%)	無回答 (%)
高齢者一般	1,494	45.0	53.2	1.8
前期高齢者(65-74歳)	661	38.6	59.9	1.5
後期高齢者(75歳以上)	771	51.9	46.8	1.3

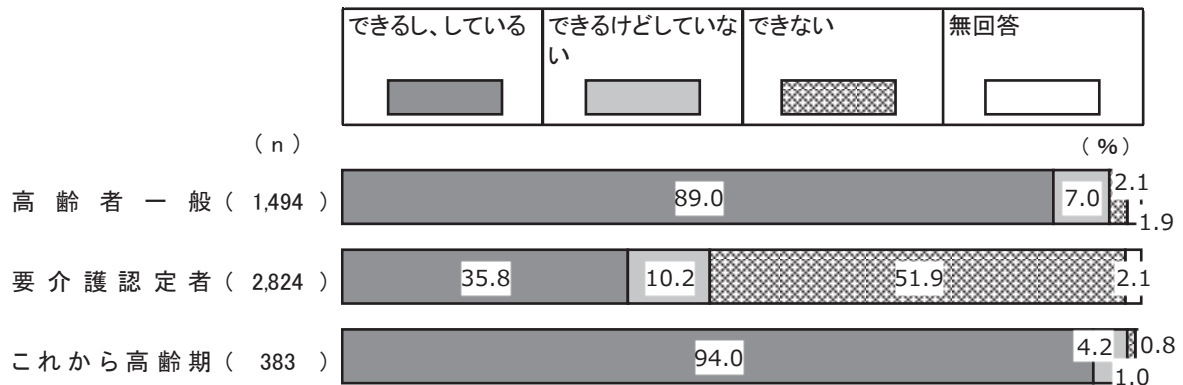
#### <要介護認定者：年代別>

	n	はい (%)	いいえ (%)	無回答 (%)
要介護認定者	2,824	70.0	27.0	3.0
前期高齢者(65-74歳)	401	56.6	41.6	1.7
後期高齢者(75歳以上)	2,328	72.4	24.7	2.9

### ③ バスや電車を使ってひとりで外出すること

○バスや電車を使ってひとりで外出することが“できる”と回答した人は、高齢者一般で96.0%、要介護認定者で46.0%、これから高齢期で98.2%となっている。

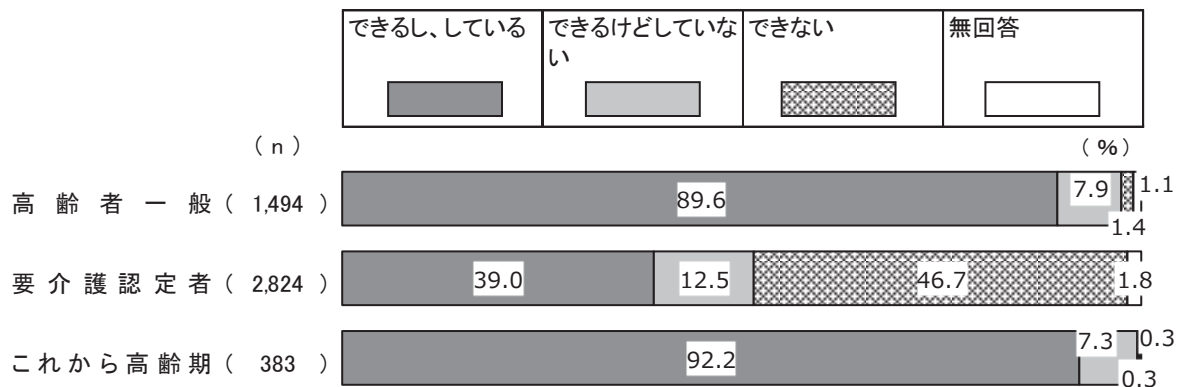
#### ■バスや電車を使ってひとりで外出すること 《ニーズ調査》



### ④ 自分で食品・日用品の買い物をすること

○“できる”と回答した人は、高齢者一般で97.5%、要介護認定者で51.5%、これから高齢期で99.5%となっている。

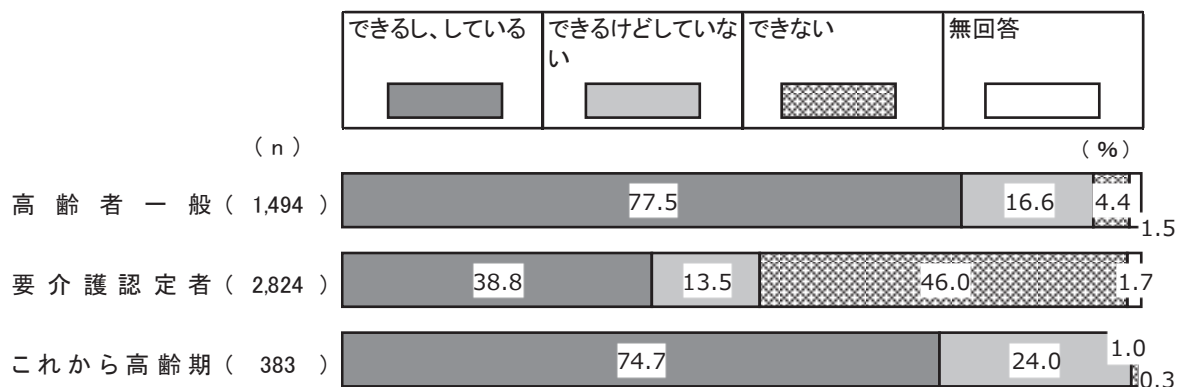
#### ■自分で食品・日用品の買い物をすること 《ニーズ調査》



### ⑤ 自分で食事の用意をすること

○“できる”と回答した人は、高齢者一般で94.1%、要介護認定者で52.3%、これから高齢期で98.7%となっている。

#### ■自分で食事の用意をすること 《ニーズ調査》

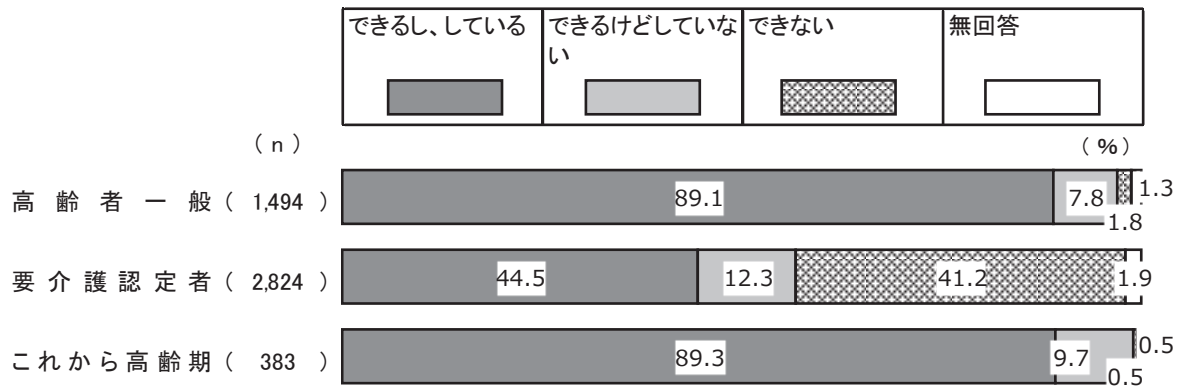




⑥ 自分で請求書の支払いをすること

○“できる”と回答した人は、高齢者一般で96.9%、要介護認定者で56.9%、これから高齢期で99.0%となっている。

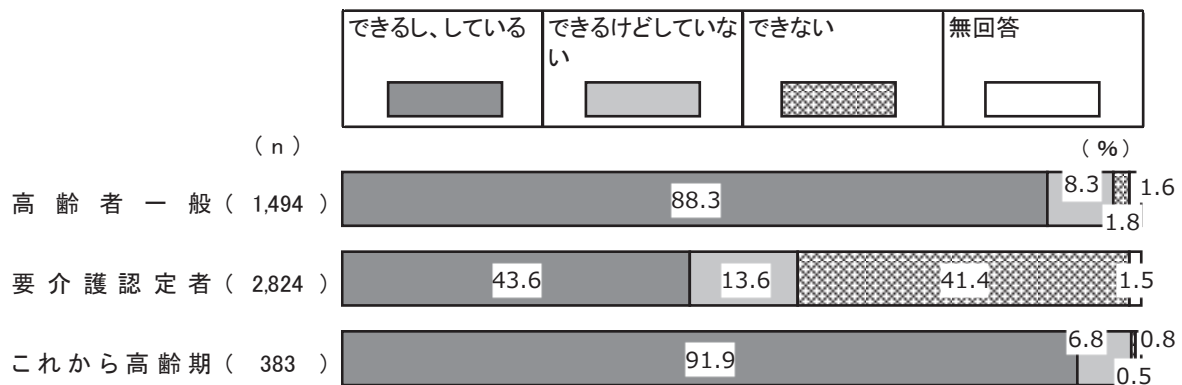
■自分で請求書の支払いをすること <<ニーズ調査>>



⑦ 自分で預貯金の出し入れをすること

○“できる”と回答した人は、高齢者一般で96.6%、要介護認定者で57.1%、これから高齢期で98.7%となっている。

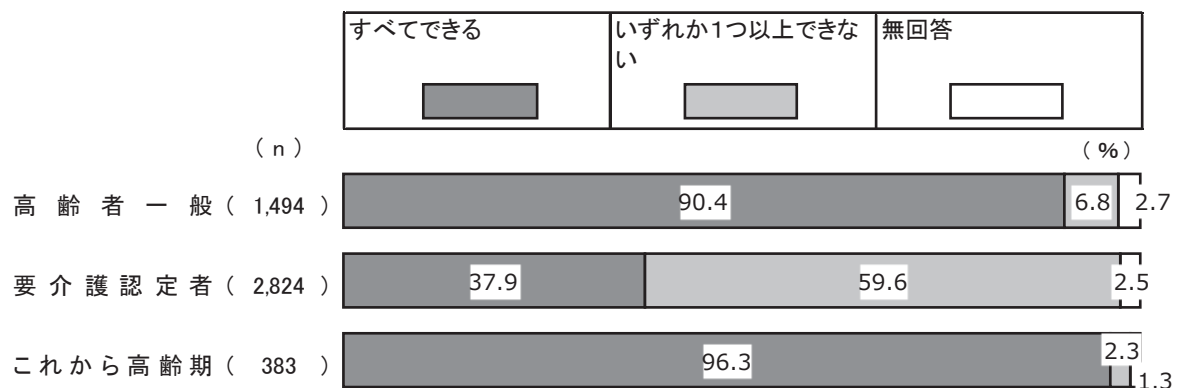
■自分で預貯金の出し入れをすること <<ニーズ調査>>



⑧ 日常生活の自立状況

○「すべてできる」と回答した人は、高齢者一般で90.4%、要介護認定者で37.9%、これから高齢期で96.3%となっている。

■日常生活の自立状況

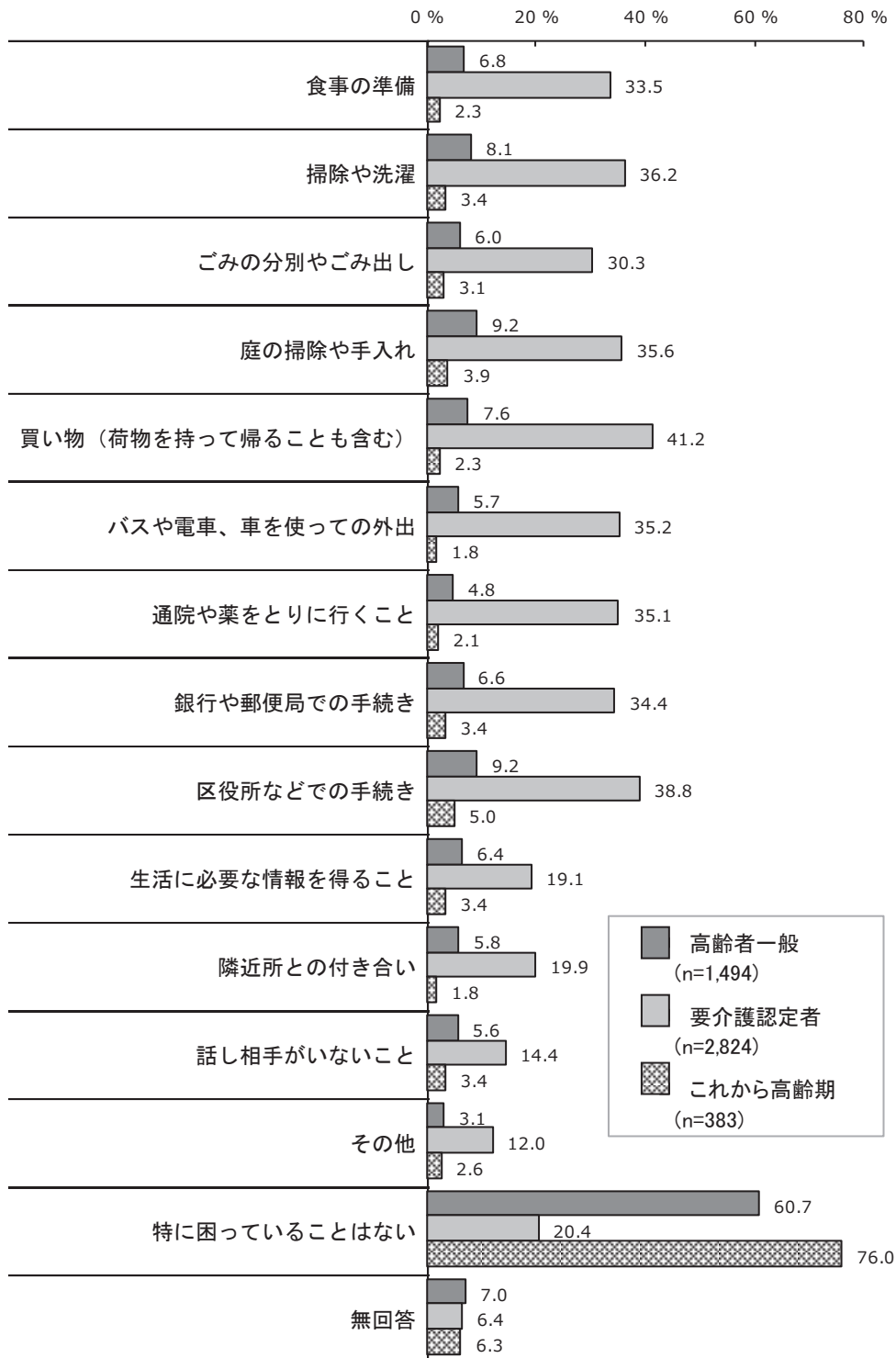


※ ③～⑦の5項目全てについて「できるし、している」あるいは「できるけどしていない」と回答した人を「すべてできる」、5項目のいずれかについて「できない」と回答した人を「いずれか1つ以上できない」に分類した

### ⑨ 日常生活の中での困りごと

- 高齢者一般、これから高齢期では、「特に困っていることはない」が最も高く、それぞれ60.7%、76.0%となっている。
- 要介護認定者では、「買い物」（41.2%）、「区役所などでの手続き」（38.8%）、「掃除や洗濯」（36.2%）、「庭の掃除や手入れ」（35.6%）、「バスや電車、車を使っての外出」（35.2%）、「通院や薬をとりに行くこと」（35.1%）が上位に挙げられている。

■日常生活の中での困りごと（複数回答）



**【高齢者一般】**

○年代別にみると、『前期高齢者』は日常生活の中で「特に困っていることはない」が約7割であるのに対し、『後期高齢者』は5割超となっている。『後期高齢者』の日常生活の中での困りごととしては、「庭の掃除や手入れ」「区役所などでの手続き」「買い物(荷物を持って帰ることも含む)」「掃除や洗濯」が1割超となっている。

**■日常生活の中での困りごと(複数回答) <高齢者一般：年代別>**

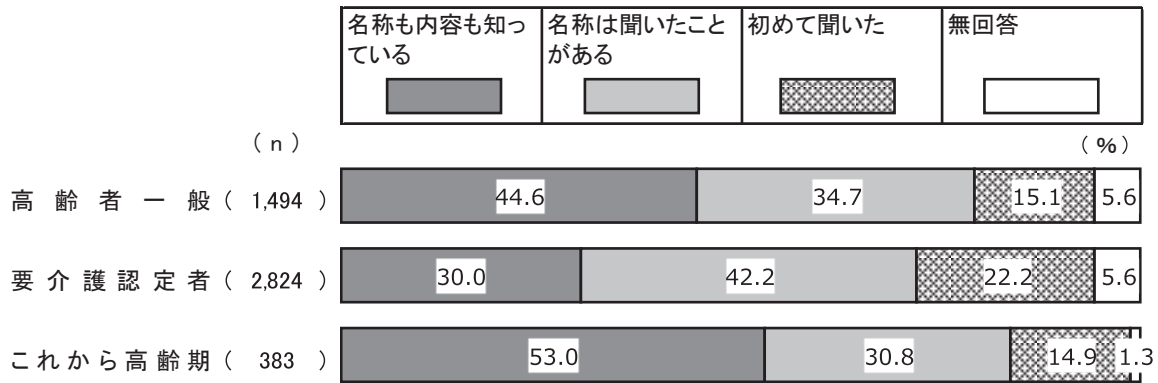
	n	庭の掃除や手入れ	区役所などでの手続き	掃除や洗濯	買い物(荷物を持って帰ることも含む)	食事の準備	銀行や郵便局での手続き	生活に必要な情報を得ること	ごみの分別やごみ出し	隣近所との付き合い	バスや電車、車を使うための外出	話し相手がいないこと	通院や薬をとりに行くこと	その他	特に困っていることはない	無回答
高齢者一般	1,494	9.2	9.2	8.1	7.6	6.8	6.6	6.4	6.0	5.8	5.7	5.6	4.8	3.1	60.7	7.0
前期高齢者(65-74歳)	661	4.7	4.4	5.7	4.1	5.4	3.0	4.8	4.5	4.2	2.6	3.9	1.8	2.9	70.3	6.2
後期高齢者(75歳以上)	771	13.6	13.1	10.5	11.0	8.3	9.5	8.3	7.1	7.3	8.3	7.4	7.3	3.6	52.9	6.9

**(4) 成年後見制度**

**①成年後見制度の認知度**

○「名称も内容も知っている」は、高齢者一般で44.6%、要介護認定者で30.0%、これから高齢期で53.0%であった。  
 ○「初めて聞いた」は、高齢者一般で15.1%、要介護認定者で22.2%、これから高齢期で14.9%であった。

**■成年後見制度の認知度**



**【高齢者一般】 【要介護認定者】**

○年代別にみると、『前期高齢者』で「名称も内容も知っている」は高齢者一般では約5割、要介護認定者では4割近くで、それぞれ『後期高齢者』と比べて認知度が高い。

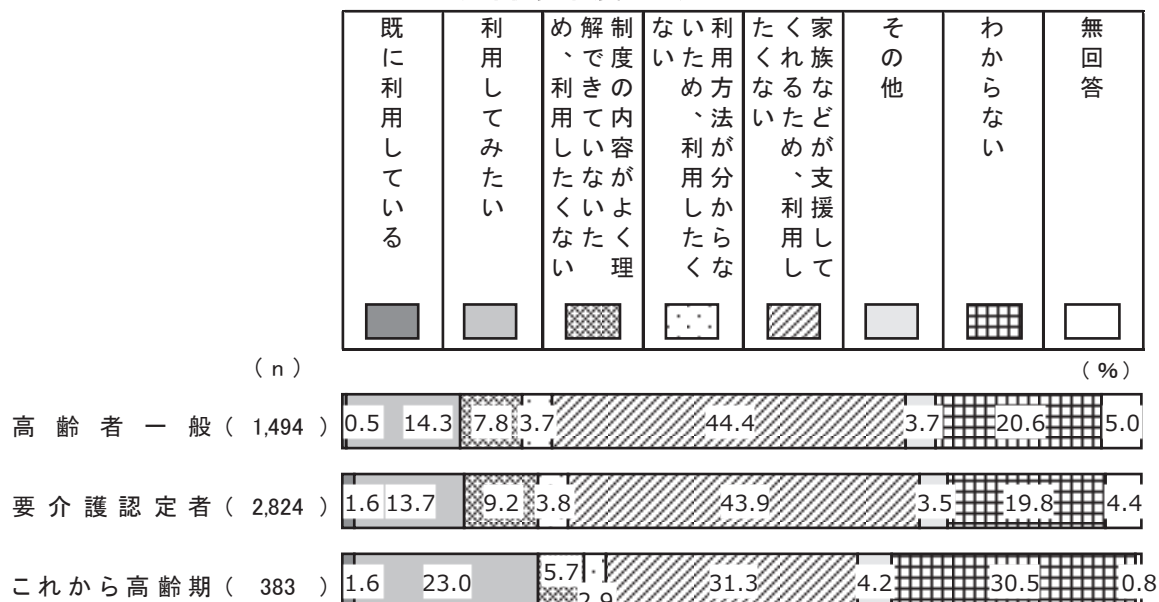
**■成年後見制度の認知度 <高齢者一般：年代別> <要介護認定者：年代別>**

	n	名称も内容も知っている (%)	名称は聞いたことがある (%)	初めて聞いた (%)	無回答 (%)
高齢者一般	1,494	44.6	34.7	15.1	5.6
前期高齢者(65-74歳)	661	49.6	34.2	13.9	2.3
後期高齢者(75歳以上)	771	42.8	37.4	16.3	3.5
要介護認定者	2,824	30.0	42.2	22.2	5.6
前期高齢者(65-74歳)	401	37.4	42.4	19.2	1.0
後期高齢者(75歳以上)	2,328	29.6	43.0	23.1	4.3

## ②成年後見制度の利用意向

- 高齢者一般、要介護認定者では、「家族などが支援してくれるため、利用したくない」が4割超で最も高い。
- これから高齢期では、「家族などが支援してくれるため、利用したくない」「わからない」がそれぞれ約3割となっている。

### ■成年後見制度の利用意向



### 【高齢者一般】 【要介護認定者】

- 性別にみると、高齢者一般では『男性』は「利用してみたい」が約2割で『女性』（約1割）と比べて利用意向が高い。
- 要介護認定者では、『男性』は「利用してみたい」が1割半ばで、『女性』（1割超）と比べて利用意向が高い。

### ■成年後見制度の利用意向

#### <高齢者一般：性別>

	n	既に利用している	利用してみたい	め、解制、度の利きの用てたいがくなくない	ない利用ため、方法、利用がしからなくない	たく家族などが支援して	その他	わからない	無回答
高齢者一般	1,494	0.5	14.3	7.8	3.7	44.4	3.7	20.6	5.0
男性	615	0.2	19.8	9.8	4.7	39.0	3.3	21.6	1.6
女性	834	0.8	10.8	6.6	3.1	50.4	4.3	20.9	3.1

<要介護認定者：性別>

(%)

	n	既に利用している	利用してみたい	用できたくない	制度の内容がよく理解	利用方法が分からない	利用できる家族などが支援してく	その他	わからない	無回答
要介護認定者	2,824	1.6	13.7	9.2	3.8	43.9	3.5	19.8	4.4	
男性	1,024	2.0	16.6	10.4	4.5	43.4	3.1	18.0	2.1	
女性	1,742	1.4	12.3	8.8	3.3	45.5	3.9	21.5	3.3	

○年代別にみると、高齢者一般では『前期高齢者』の利用意向が高くなっている。

○要介護認定者では、『前期高齢者』と『後期高齢者』で大きな差はみられない。

<高齢者一般：年代別>

(%)

	n	既に利用している	利用してみたい	用できたくない	制度の内容がよく理解	利用方法が分からない	利用できる家族などが支援してく	その他	わからない	無回答
高齢者一般	1,494	0.5	14.3	7.8	3.7	44.4	3.7	20.6	5.0	
前期高齢者(65-74歳)	661	0.3	17.5	7.6	3.3	41.8	4.5	23.1	1.8	
後期高齢者(75歳以上)	771	0.8	12.2	8.4	4.2	48.9	3.2	19.3	3.0	

<要介護認定者：年代別>

(%)

	n	既に利用している	利用してみたい	用できたくない	制度の内容がよく理解	利用方法が分からない	利用できる家族などが支援してく	その他	わからない	無回答
要介護認定者	2,824	1.6	13.7	9.2	3.8	43.9	3.5	19.8	4.4	
前期高齢者(65-74歳)	401	1.7	16.2	11.7	3.7	38.4	3.7	22.4	2.0	
後期高齢者(75歳以上)	2,328	1.6	13.4	9.0	3.7	46.0	3.7	19.8	2.8	

○子どもの有無別にみると、高齢者一般では『子はいない』と回答した人は「利用してみたい」が3割近くで“子がいる”（『同居の子がいる』『近所の子がいる』『子がいる』）（1割超～1割半ば）と比べて利用意向が高い。

■成年後見制度の利用意向＜高齢者一般：子どもの有無別＞

(%)

	n	既に利用している	利用してみたい	用で制 しき度 たての くいな ないが いたよ めく、 理利 解	た利 め用 、方 法が し分 たか くら ない	なれ家 いる族 たな めど 、が 支 援し たて く	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
高齢者一般	1,494	0.5	14.3	7.8	3.7	44.4	3.7	20.6	5.0
同居の子がいる	446	0.7	11.2	7.8	2.0	55.8	1.6	16.8	4.0
近居の子がいる	326	-	11.0	6.4	3.7	61.0	1.2	15.3	1.2
子がいる(同居・近居除く)	440	0.7	14.1	8.0	4.5	42.0	4.8	24.3	1.6
子はいない	241	0.8	27.0	10.4	5.8	12.0	10.0	31.1	2.9

○子どもの有無別にみると、要介護認定者では『子はいない』と回答した人は「利用してみたい」が2割半ばで“子がいる”（『同居の子がいる』『近所の子がいる』『子がいる』）（いずれも1割超）と比べて利用意向が高い。

■成年後見制度の利用意向＜要介護認定者：子どもの有無別＞

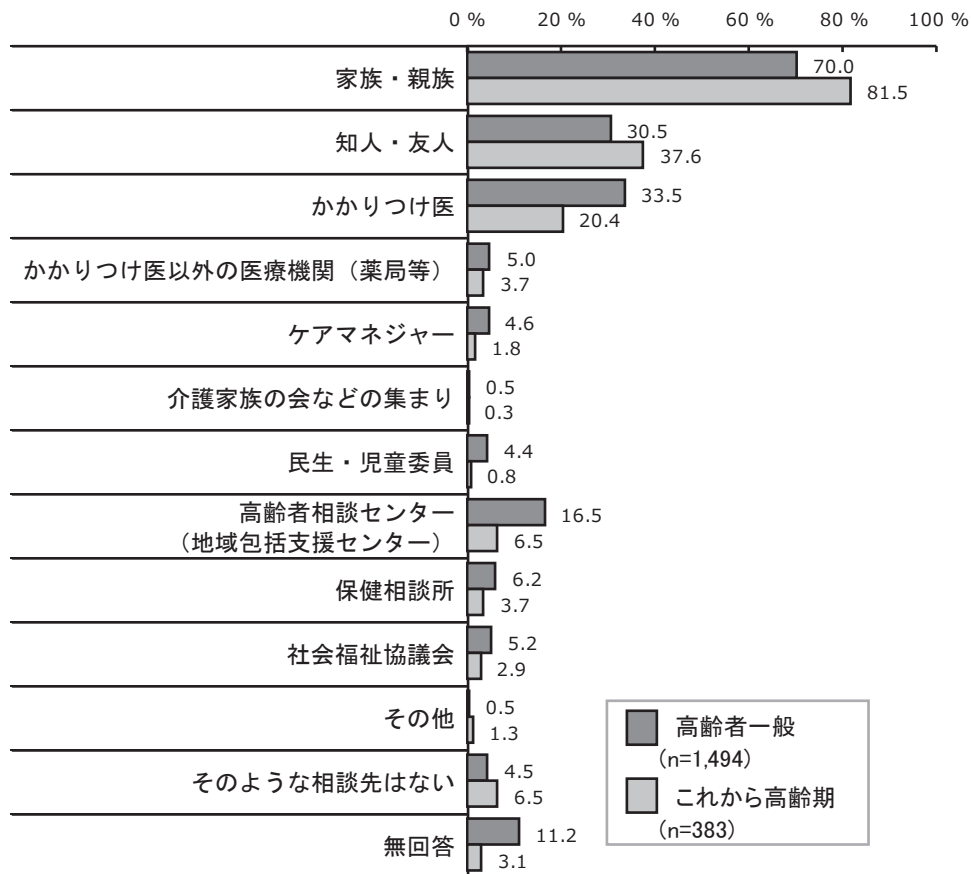
(%)

	n	既に利用している	利用してみたい	用で制 しき度 たての くいな ないが いたよ めく、 理利 解	た利 め用 、方 法が し分 たか くら ない	なれ家 いる族 たな めど 、が 支 援し たて く	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
要介護認定者	2,824	1.6	13.7	9.2	3.8	43.9	3.5	19.8	4.4
同居の子がいる	938	1.4	12.0	8.0	2.9	49.1	2.8	21.0	2.8
近居の子がいる	620	1.6	12.6	9.5	4.4	52.4	2.3	15.3	1.9
子がいる(同居・近居除く)	912	1.4	13.2	9.9	3.9	45.0	3.9	19.7	3.0
子はいない	296	3.4	24.7	12.5	5.4	14.9	8.1	28.0	3.0

## (5) 日常生活で困った場合の相談先

- いずれの調査でも「家族・親族」が最も高く、高齢者一般で70.0%、これから高齢期で81.5%であった。
- 「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」は、高齢者一般で16.5%であった。

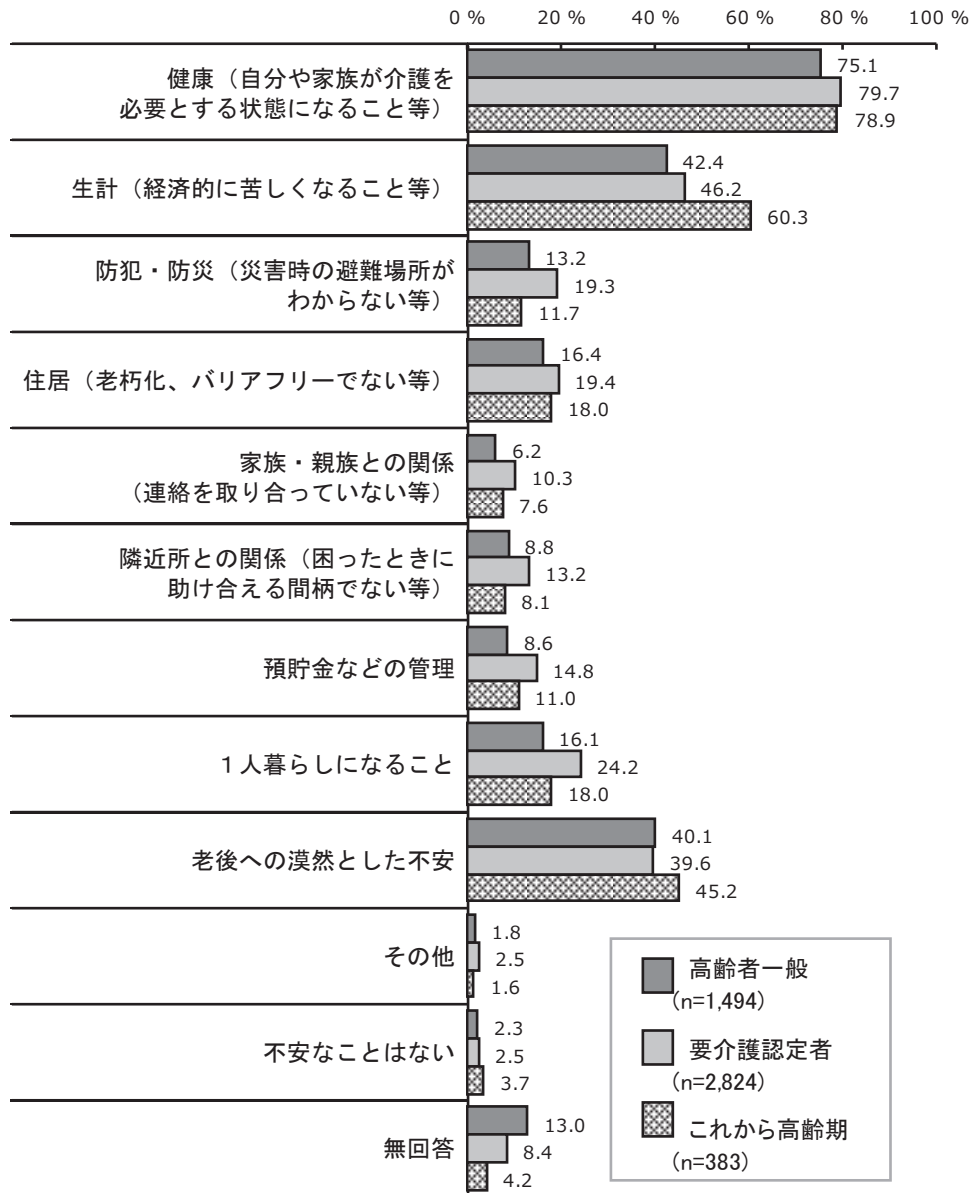
■日常生活で困った場合の相談先（複数回答）



## (6) 将来の不安

○いずれの調査においても、「健康」が最も高く7割半ば～8割近くとなっている。  
○次いで、「生計」「老後への漠然とした不安」と続いている。

■将来の不安（複数回答）

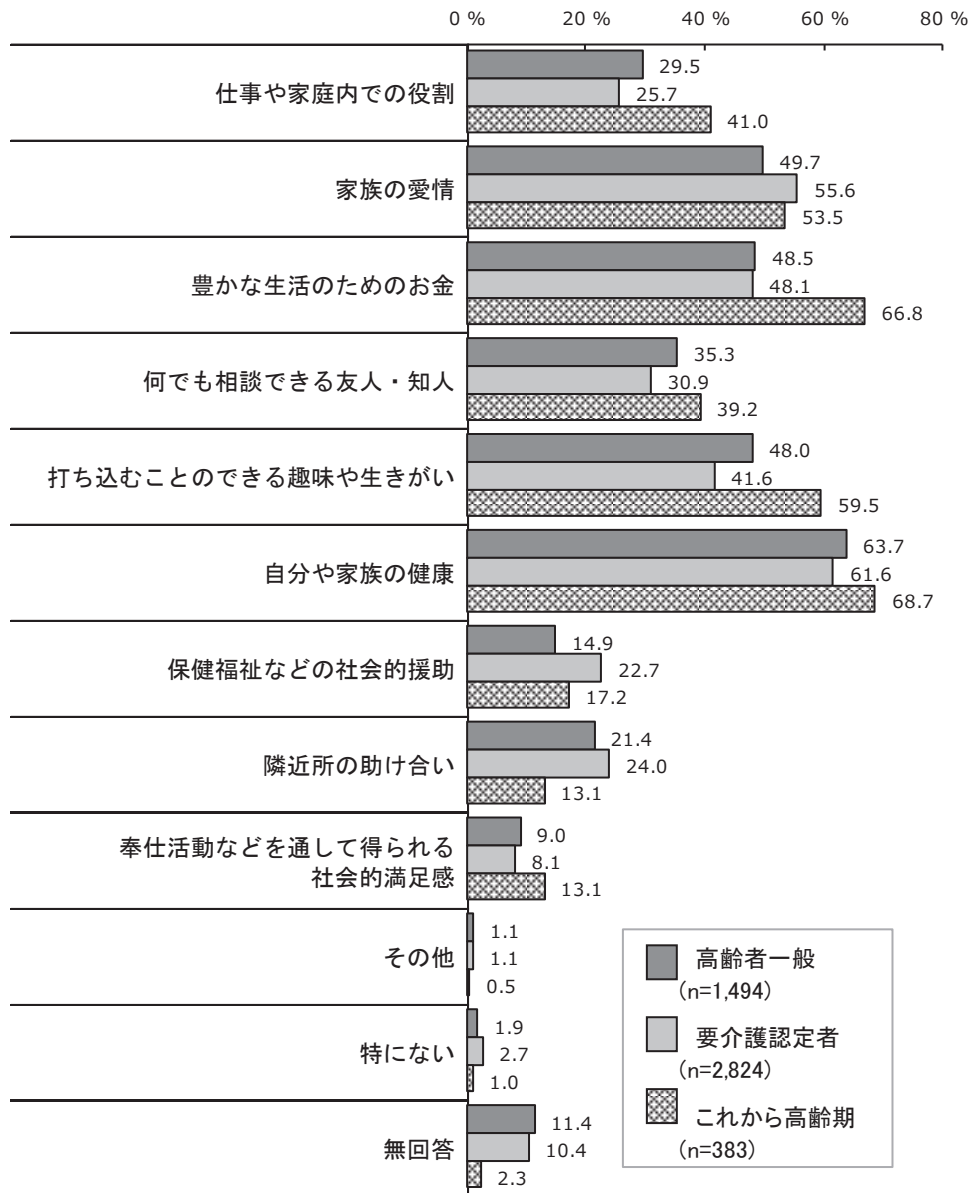




## (7) 老後を楽しく生きていくために必要なもの

- いずれの調査においても、「自分や家族の健康」が最も高く、約6割～7割近くとなっている。
- 「自分や家族の健康」以外には、「家族の愛情」や「豊かな生活のためのお金」、「打ち込むことのできる趣味や生きがい」が上位に挙げられている。

■老後を楽しく生きていくために必要なもの（複数回答）



### 【高齢者一般】

○年代別にみると、『前期高齢者』は「豊かな生活のためのお金」「打ち込むことのできる趣味や生きがい」が『後期高齢者』と比べて高い。

#### ■老後を楽しく生きていくために必要なもの（複数回答）＜高齢者一般：年代別＞

	n	自分や家族の健康	家族の愛情	豊かな生活のためのお金	打ち込むことのできる趣味や生きがい	人・知人も相談できる友人	何でも相談できる友人	仕事や家庭内の役割	隣近所の助け合い	的保健福祉などの社会的援助	足感得られる社会的満足	奉仕活動などを通じた社会的満足	その他	特になし	無回答
高齢者一般	1,494	63.7	49.7	48.5	48.0	35.3	29.5	21.4	14.9	9.0	1.1	1.9	11.4		
前期高齢者(65-74歳)	661	66.4	48.3	52.6	51.6	37.5	32.8	18.2	16.2	11.8	0.9	2.1	10.0		
後期高齢者(75歳以上)	771	63.0	52.7	46.2	45.5	34.0	27.4	24.6	14.1	6.9	1.4	1.4	11.8		

○世帯構成別にみると、『夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)』は「仕事や家庭内での役割」「家族の愛情」「自分や家族の健康」が『1人暮らし』と比べて高い。

#### ■老後を楽しく生きていくために必要なもの（複数回答）＜高齢者一般：世帯構成別＞

	n	役仕事や家庭内での役割	家族の愛情	豊かな生活のためのお金	友・知人も相談できる友人	何でも相談できる友人	いき打ち込むことのできる趣味や生きがい	自分や家族の健康	会的保健福祉などの社会的援助	隣近所の助け合い	的満足感	奉仕活動などを通じた社会的満足	その他	特になし	無回答
高齢者一般	1,494	29.5	49.7	48.5	35.3	48.0	63.7	14.9	21.4	9.0	1.1	1.9	11.4		
1人暮らし	474	15.2	32.1	48.3	39.9	44.3	52.5	16.9	24.3	10.5	1.5	3.4	13.1		
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	374	34.5	60.4	51.1	31.0	50.3	72.7	15.0	23.8	9.6	1.1	1.9	9.1		
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	76	40.8	50.0	51.3	26.3	48.7	61.8	22.4	17.1	11.8	1.3	1.3	10.5		
息子・娘との2世帯	218	40.8	61.9	46.3	32.1	51.8	71.6	10.1	18.3	6.9	0.5	0.5	10.6		
その他	301	35.2	58.1	49.8	39.5	50.8	68.8	14.3	18.3	7.0	1.3	0.3	9.3		

### 【参考：過去の調査結果との比較】

○平成13年度に実施した調査と比べると、平成28年度は「保健福祉などの社会的援助」が低い。

#### ■老後を楽しく生きていくために必要なもの（複数回答）＜高齢者一般：経年比較＞

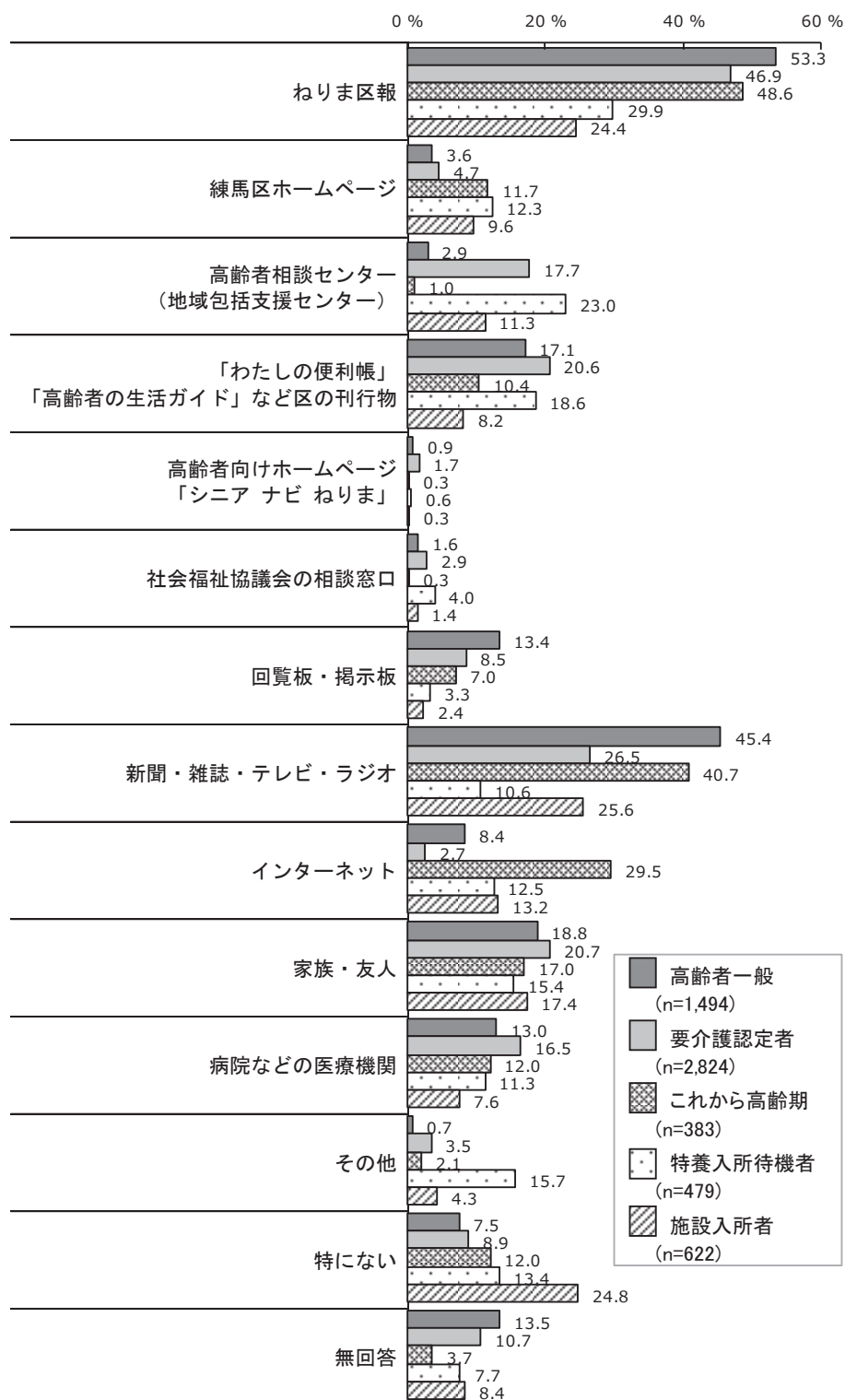
	n	自分や家族の健康	家族の愛情	豊かな生活のためのお金	打ち込むことのできる趣味や生きがい	人・知人も相談できる友人	何でも相談できる友人	仕事や家庭内の役割	隣近所の助け合い	的保健福祉などの社会的援助	足感得られる社会的満足	奉仕活動などを通じた社会的満足	その他	特になし	無回答
平成28年度	1,434	64.3	49.6	49.0	48.7	35.8	29.4	22.0	15.0	9.2	1.2	1.7	11.4		
平成13年度	2,008	79.4	57.3	43.9	53.3	36.6	27.1	31.5	33.4	17.0	1.5	2.0	2.0		

※ 平成13年度調査は、住民基本台帳から介護保険の認定を受けている者を含む65歳以上の高齢者を無作為に抽出して調査を行っている(回答者の構成比は、＜男性45.4%、女性53.4%＞＜前期高齢者64.1%、後期高齢者34.9%＞＜1人暮らし世帯10.8%、同居世帯48.3%、夫婦のみ世帯36.3%＞)。そのため、平成13年度は身体状況を聞く設問で「交通機関を使い不自由なく一人で外出できる」「多少不自由だが交通機関を使い外出できる」と回答した者(2,008人)のみ、平成28年度は『バスや電車を使って一人で外出しているか(自家用車含む)』を聞く設問で「できるし、している」「できるけどしていない」と回答した者(1,434人)のみを対象とした

## (8) 健康や保健福祉の情報の入手方法

- 高齢者一般、要介護認定者、これから高齢期では、「ねりま区報」が最も高く、それぞれ 53.3%、46.9%、48.6%となっている。
- これから高齢期では、「インターネット」が約3割と他の調査対象者よりも高くなっている。
- 特養入所待機者では、「ねりま区報」と「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」が上位に挙げられている。

■健康（介護保険）や保健福祉の情報の入手方法（○は3つまで）

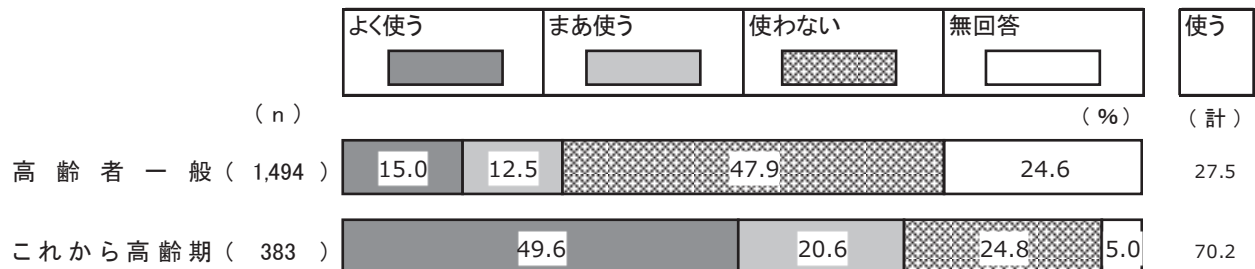


## (9) パソコン等の情報通信機器の使用状況

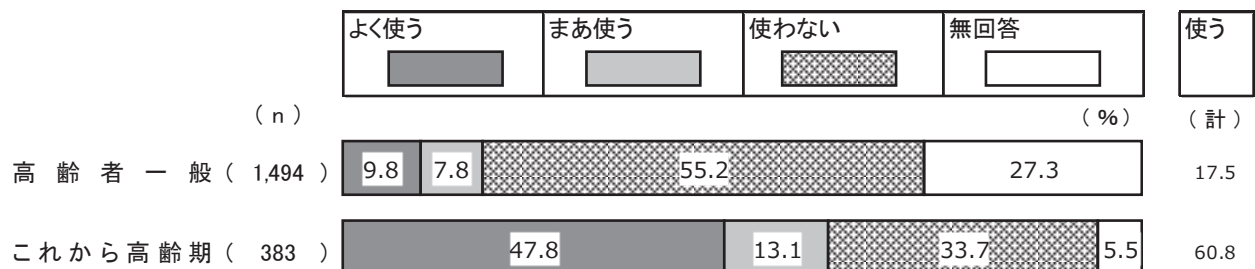
- 「携帯電話」は、高齢者一般、これから高齢期ともに約半数が使用している。
- これから高齢期では、「パソコン」が約7割（高齢者一般は3割近く）、「スマートフォン」が約6割（高齢者一般は2割近く）の使用状況となっている。

### ■パソコン等の情報通信機器の使用状況

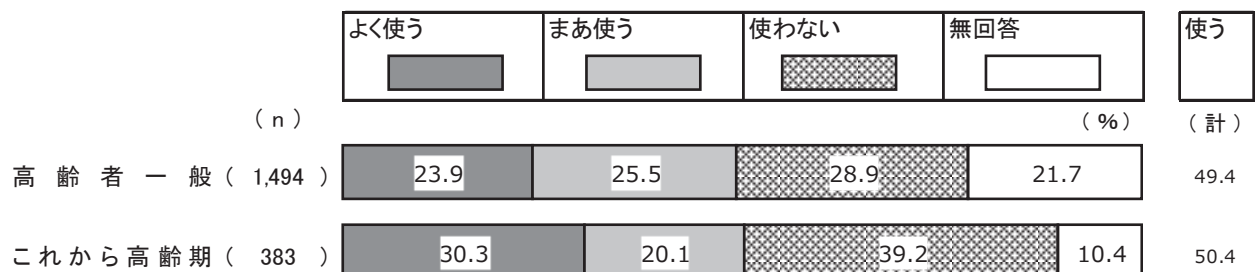
#### ①パソコン



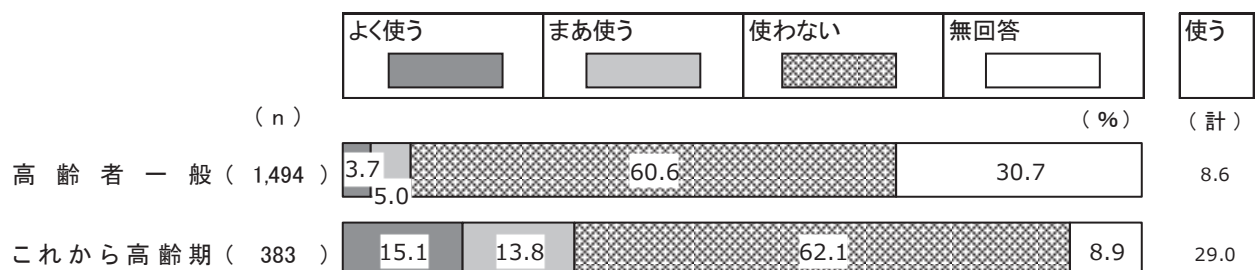
#### ②スマートフォン



#### ③携帯電話



#### ④タブレット型端末



**【高齢者一般】**

○年代別にみると、『前期高齢者』の情報通信機器の使用率は、『後期高齢者』と比べて高い。

**■パソコン等の情報通信機器の使用状況<高齢者一般：年代別>**

**①パソコン**

	n	(%)				(計)
		よく使う	まあ使う	使わない	無回答	使う
高齢者一般	1,494	15.0	12.5	47.9	24.6	27.5
前期高齢者(65-74歳)	661	22.2	15.0	44.6	18.2	37.2
後期高齢者(75歳以上)	771	9.2	10.9	50.8	29.1	20.1

**②スマートフォン**

	n	(%)				(計)
		よく使う	まあ使う	使わない	無回答	使う
高齢者一般	1,494	9.8	7.8	55.2	27.3	17.5
前期高齢者(65-74歳)	661	16.6	10.6	53.9	18.9	27.2
後期高齢者(75歳以上)	771	4.2	5.3	57.7	32.8	9.5

**③携帯電話**

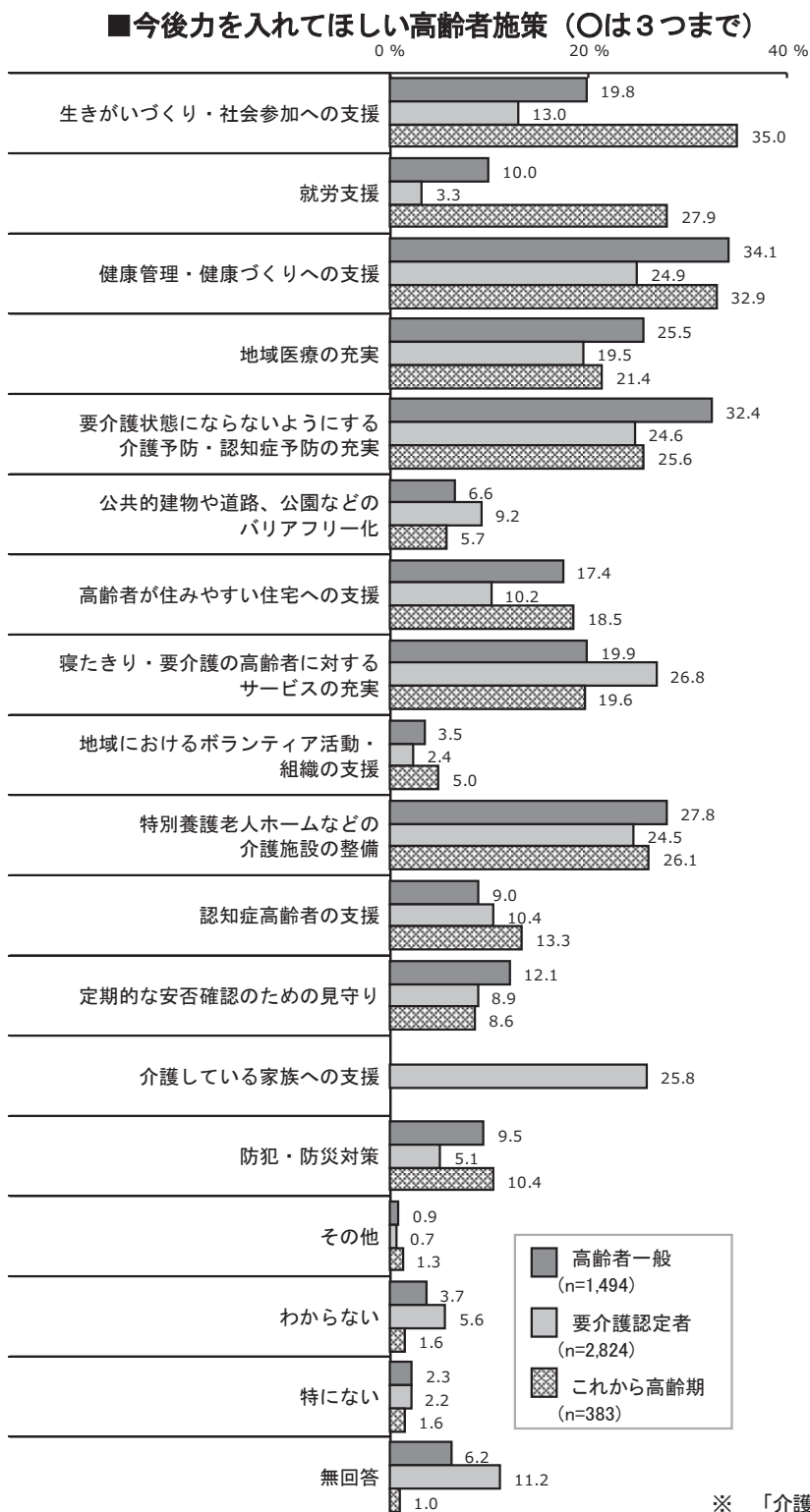
	n	(%)				(計)
		よく使う	まあ使う	使わない	無回答	使う
高齢者一般	1,494	23.9	25.5	28.9	21.7	49.4
前期高齢者(65-74歳)	661	28.7	26.0	28.0	17.2	54.8
後期高齢者(75歳以上)	771	20.0	25.6	29.8	24.6	45.5

**④タブレット型端末**

	n	(%)				(計)
		よく使う	まあ使う	使わない	無回答	使う
高齢者一般	1,494	3.7	5.0	60.6	30.7	8.6
前期高齢者(65-74歳)	661	5.7	7.0	63.5	23.8	12.7
後期高齢者(75歳以上)	771	2.1	3.4	59.5	35.0	5.4

## (10) 今後力を入れてほしい高齢者施策

- 高齢者一般では、「健康管理・健康づくりへの支援」(34.1%)、「要介護状態にならないようにする介護予防・認知症予防の充実」(32.4%)が上位に挙げられている。
- 要介護認定者では、「寝たきり・要介護の高齢者に対するサービスの充実」(26.8%)、「介護している家族への支援」(25.8%)、「健康管理・健康づくりへの支援」(24.9%)、「要介護状態にならないようにする介護予防・認知症予防の充実」(24.6%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設の整備」(24.5%)が上位に挙げられている。
- これから高齢期では、「生きがいがづくり・社会参加への支援」(35.0%)、「健康管理・健康づくりへの支援」(32.9%)が上位に挙げられている。



※ 「介護している家族への支援」は要介護認定者のみ聞いている